

新しい図書館を

みんな
で

プロデュース してみよう！



第2回 新中央図書館市民ワークショップを開催しました！

参加者のみなさま、ありがとうございました！！

「本を好きになる図書館をプロデュース」をテーマに、叶多泰彦先生のレクチャーを受講後、グループワークにてたくさんの提案をいただきました。

日 時：2024年12月08日(日)
13時30分-16時30分

場 所：ひたちなか市役所防災会議室

参加者：25名

叶多泰彦先生 | かのうだやすひこ

千葉経済大学短期大学部 教授
千葉経済大学総合図書館 館長



叶多泰彦先生による レクチャー

グループワークの意見交換を活発にすることを目的として、「本を好きになる図書館」をテーマに、展示・書架・イベントの事例紹介をしていただきました。

1. 書架

書架は図書館内の「場の雰囲気」を演出する重要な要素。見せ方で書架の印象は異なる。配架計画と案内サインをうまく融合させることで、目的の図書や情報に簡単に行きつく工夫をすることができる。書架は、「本の探しやすさ」「全体の一覧のしやすさ」「世界観」を意識した計画が重要。興味・関心を呼び起こす「書架と空間の演出」が重要。電子書籍やデジタルアーカイブへの対応による「見えない書架」での演出が今後の課題。

2. 展示

展示は、通常の分類順では出会いにくい図書や情報の積極的な情報発信を行う機能。①面展示：本の魅力が凝縮された表紙を見せる。②常設展示(コーナー)：図書館の発信力の軸「地域のテーマ」③特集(企画)展示：企画者の感性が試される。

3. イベント

イベントでの経験が本・人・学びにつながる。【成功事例】リアルな昆虫と図鑑との対比体験イベント。自然博物館とのコラボ(連携)企画：学芸員+司書。【失敗事例】図書館資料とのつながり・市民ニーズとの適合性が弱いイベントの場合、図書館での開催に必然性が感じられにくい。

【ポイント】タイムリーな企画、ターゲット層の想定、ニーズの見極め、連携(他部署・他機関等)、図書館(読書)との関係性

4. まとめ(問題提起)

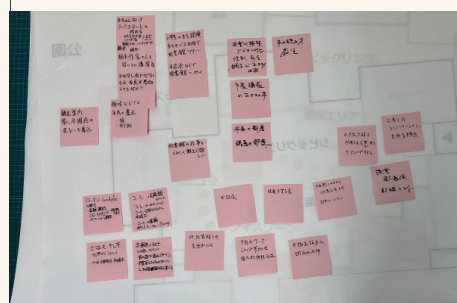
以下の4点が重要。①読書へのハードルが高い方々や子どもの読書環境整備、②個人や地域の情報提供・課題解決機能、③司書のキュレーション力・プロデュース力・価値付加力、④行政各部署や各種団体との連携。

紹介していただいた事例

ロッテルダム市立図書館、ヴェルツブルグ市立図書館、伊万里市民図書館、シュトゥットガルト市立図書館、リバプール市立図書館、紫波町図書館、聖籠町立図書館、富山市立図書館、仙台メディアテーク、名取市立図書館、市川市中央図書館

図書館を訪れるきっかけ づくりとなるイベントや展示

今回のワークショップでは、市民のみなさまが、新しい図書館を訪れるきっかけとなり、さらには、訪れた方々が本をもっと好きになるようなイベントや展示のアイデアを話し合っていました。前半のグループワーク1は、レクチャーの内容を参考にしながら、イベントや展示のアイデアをできるだけたくさん紙に書き出すことを目標としました。後半のグループワーク2は、前半で出たアイデアの中からテーマを絞り、①対象者、②規模感、③時間帯、④必要なスタッフ、必要な設備、⑤ゲスト、⑥達成目標など、イベントや展示の詳細を検討しました。



各グループワークで出されたアイデア

- 当日の流れ -

1. グループワーク 1
2. 発表
3. グループワーク 2
4. 発表
5. 全体でのディスカッション

各テーマについて、次のような意見が出されました。

A 班 テーマ：【湊線】

○湊線の魅力を伝えるイベントや展示。電車型のイスやプラレールを図書館内に走らせるイベントの開催。○湊線の歴史に関する書籍の展示。○おらが湊鉄道応援団とコラボした写真撮影ワークショップの開催。○湊線の駅猫「ミニさむ」の特集展示。○駅猫好きの人や撮鉄をターゲットとした展示やイベントの開催。○新しい図書館に近い金上駅から湊線に乗ってみるイベントの開催。



B 班 テーマ：【ほしいも】

○ほしいもについてもっと知りたい人やほしいものが好きな人たちをターゲットにしたイベントや展示。○地元農家や農政課、観光振興課や観光協会と連携した常設展示。○公園の中という立地を生かした、テラス空間での品評会の実施。○農家やほしいも生産者の方からのレクチャーの開催。○相乗効果を生むために、音楽イベントや、コーヒーの試飲など、複数のイベントを合わせて開催。○公式 SNS やイベント開催時にはライブ配信をするなど、インターネットを使った広報活動を積極的に実施。



C 班 テーマ：【ネモフィラ】

○ネモフィラなどの育て方をレクチャーするワークショップを開催。○四季に応じて年に4回開催。○ガーデニングのプロや園芸家を招き、植え方や育て方教室の開催。○市民ボランティアが協力し、将来的には活動が市全体に広がり、図書館を発信地に花があふれるまちになることが目標。

D 班 テーマ：【技術、科学実験】

○高等専門学校や工業高校と企業をつなぐハブとなる場所。○地元企業等にスポンサーになってもらう企画。○図書館で開催するイベントが未来の技術者育成につながることを目指す。○農業や水産業、科学技術分野など様々な分野のブースやイベントを企画。

F 班 テーマ：【まちの歴史】

○まちの歴史に興味を持ってもらうようなイベントや展示。○地域ごとにまとまっている資料を集めた展示。○夏休みに歴史館の学芸員を招き、実際の歴史を見てきた方がストーリーテラーとなる講演会やイベントを開催。○イベントの様子は SNS で発信。



E 班 テーマ：【読み聞かせ】【市の産業】

【読み聞かせ】○ボランティアが主体となり、月1回以上のペースでの読み聞かせ会を開催。○開催時間を決めることなく、人が5人くらい集まったらスタート。○SNS や HP での呼びかけの実施。

【市の産業】○求職者や高校生、高等専門学校生を対象とした「ビジネスゾーン」を設置。○学習室の近くで展示。○1カ月で展示する企業が入れ替わるなど効果的にリーチする工夫。○多目的室で講座を開催。○多くの学生に市の産業を知ってもらうことが目標。



叶多先生のコメント

参加者のみなさまから発表のあった「本を好きになる図書館」のアイデアは、次回のワークショップテーマである「まちが好きになる図書館」のアイデアにもなっている。まちの魅力を引き出した図書館づくり、イベント・展示の企画を行うことの重要性を改めて感じた。今回の成果を是非次回につなげていただきたい。